

〈教育実践報告〉

## 教職ゼミにおける教員資質・能力の涵養—スポーツ健康科学部 「専門基礎演習Ⅰ」における授業報告を中心にして—

矢田貞行\*

### はじめに

大学の学士課程教育において、初年次教育と3年生からの専門教育との橋渡しをする「2年次教育」の在り方については、これまでその重要性が初年次教育ばかりに集中してきたこともあり、また大学2年生という学年段階が大学に学生たちが慣れ、やや中弛みの宙ぶらりんの状態であることもあって、等閑視されてきたことは否めない事実である。いくつかの大学では、3年次以降の就職活動を念頭に置いたキャリア教育やゼミを中心とする専門教育につなげるために、2年次教育に力を入れ、「学生と大学」「学生と社会生活」といった選択科目を設け、学修を深め、意欲を継続して専門教育に橋渡しをする取り組みを長年行ってきているところもある。

ところで、本学スポーツ健康科学部では、2年次からコース分けを行い、学生たちはそれぞれの進路に応じて4つのコース（スポーツ教育コース、こどもスポーツコース、アスリートサポートコース、ヘルスデザインコース）のいずれかを選択し、3年次からの本格的な専門演習に備えて基礎的な学修を積むために、「専門基礎演習」が設定されている。筆者の担当するのは、中学校・高等学校の保健体育の教員を主として目指すスポーツ教育コースの学生を対象としたものであり、この趣旨に沿ってゼミ学生を募集し、本演習を行っている。そこで、本稿においては、令和7年度春学期「専門基礎演習Ⅱ」の授業について報告する。

### I. ゼミの内容

開講当初、第1回目のゼミにおいて、受講学生に対して次のような内容を提示し、パワーポイントで説明している。

- (1)本ゼミは、まず第1に教員志望者を対象としたものであり、教職に関する基礎的な事項について学び、教職教養に関する基本的な事項を修得することに努める。
- (2)次いで、そのように修得した基礎的知識・技能に基づいて、実践的な側面について学修を深め、学校現場における実際の課題に関する基礎的な理解、関心を深める。
- (3)さらに、4年次の教育実習において求められる学習指導力について、その基本的資質能力の1つとされる学習指導力（授業力）に関する知識・技能を、先輩の模擬授業に参加することを通して修得することを目指す。

---

\* 東海学園大学スポーツ健康科学部教授

図1. ゼミの概要

<p><b>専門基礎演習Ⅰ・Ⅱ</b></p> <p><b>【PartⅠ】</b></p> <p>① 教員採用試験（以下、教採と略す）において出題される教育用語に関する漢字（教員採用試験1次一般教養、小学校専門教養1次）の練習</p> <p>東海地区を始めとする自治体の教採スケジュールの変更（令和6年度から）に伴い、4～6月に1次試験が前倒しになっている。そして多くの自治体では、3年次から受験可能になっている。そのため本授業では、教採1次対策の一環として、頻出される教育用語を中心とした漢字の練習を行う。</p> <p>② 教職教養の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の仕事（学習指導：保体・道徳・特活・総合学習、生徒指導、学級経営、校務分掌等）について理解する。</li> <li>・学校の組織・管理運営・校務分掌について理解する。</li> <li>・担任の仕事について理解する。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学級の運営（学級経営）</li> <li>2) 部活指導</li> <li>3) 保護者対応</li> <li>4) 学校でのトラブルへの対応（場面指導）</li> <li>5) 体育・スポーツの学習</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育・スポーツに関するテーマを毎回取り上げる。</li> <li>・それに関するDVDを視聴して、感想を書く。</li> </ul> <p><b>【PartⅡ】</b></p> <p>① 先輩（4年生）の模擬授業（保健）の生徒役</p> <p>②                   ”                   （道徳）                   ”</p> <p>③ 場面指導についての演習</p>
---

ちなみに、令和7年度のゼミは、次のような日程で実施した。

表1. 専門基礎演習Ⅰ 日程表（2年生）火3            422教室（模擬授業は、421B教室）

1	4月8日	自己紹介（学級開きに際しての担任の挨拶）、授業の進め方（場面指導・模擬授業）
2	4月15日	模擬授業①（4年生が教師役、2年生が児童生徒役）
3	4月22日	場面指導：成績評価に対する保護者クレーム、授業中の怪我対応の不備
4	4月29日	模擬授業②
5	5月13日	模擬授業③
6	5月20日	模擬授業④
7	5月27日	休■補講①場面指導：教員の不祥事（USB紛失）、いじめへの対応
8	6月3日	休■補講②場面指導：教員のメンタルヘルス、メンタル不調
9	6月10日	模擬授業⑤
10	6月17日	模擬授業⑥
11	6月24日	模擬授業⑦
12	7月1日	模擬授業⑧
13	7月8日	レポート作成
14	7月15日	模擬授業⑨
15	7月22日	模擬授業⑩

## II. ゼミの実際

まず(1)に関しては、1年次に受講した教育原理や教職概論等の教育に関する科目で得た知見等について、教育に関する文献や資料に基づいて再確認した。例えば、教育とは何か、教師の仕事にはどんなものがあるのか、さらには学校とはどのような組織であり、いかなる理念を持って運営されているのか、現在学校はどのような課題を抱えているのか、などといった点について、随時講義や演習形式で学生に問いかけることにした。

次いで、(2)においては、(1)で触れた教育の基礎的・基本的事項について、それらが学校現場においてどのように関連づけられ、展開しているのかを、いくつかの事例研究を通して学生に学修させた。より具体的に言えば、現職教員を対象とした研修用ビデオを用い、演習方式で学校において派生する様々な問題について、考察を行った。例えば、取り上げた事例としては、「生徒の成績に対する保護者クレーム」「学級内で発生したいじめへの対応」「成績を記載したUSBメモリの紛失」「教員のメンタル不調」等である。

具体的には所定のワークシートを活用して、個人で考えたり、グループワークを行ったりして、その回答を口頭もしくは板書にて発表させ、その後動画を見て解説を加えた。学生の回答も概ね正鵠を射たものであったが、実際の対応に際して、然るべき必要な知識の熟知や教師が取るべき措置や態度等、こうした場面設定を前提とした学修を行う必要性を彼らに教示するよい機会になっていると自負している。また、1人で抱え込んだり、思い込みだけで行動すると取り返しのつかないことになりかねず、このような事例研究は、現職教育のみならず、教員養成段階においても非常に重要なことであると確信している。

また、教師の仕事は、一般社会の企業や役所とは異なり、掛値なしの性格を帯びており、児童生徒の成長発達や人間形成、人格形成に関わるものである。そのために、教師自身の人柄や人間性が問われ、喫急の事態に対する的確な状況判断とそれに基づく指示、児童生徒や保護者、地域社会の人たちや自らを取り巻く他人とのコミュニケーションの交わり方等において、精緻な対応が求められる。こうした資質能力については、教員養成の段階から、求められる必須事項の1つとして、身に付けておく必要がある。

さらに、(3)については、これまで本稿における授業研究・報告において明らかにしてきたように、模擬授業を通じて教員の基礎的授業力の資質能力育成の手始めとして、上級生による模擬授業を児童生徒役として2年生に受けさせている。以前は、3年生が中心となって教師役を務めてきたが、令和7年度は教育実習を終えた4年生に教師役をお願いすることにした。

この点がこれまでとは大きく異なる点であったが、模擬授業を企画し指導する教員の側から見ると、この変更は極めて有効であった。なぜなら4年生の多くは、教育実習を3週間経験していることで、教員としての資質能力の向上において飛躍的な成長を遂げており、現場における教師として自覚し、その基礎的体験を踏まえた指導力は、次のような点において実習以前とは比べものにならないものであった。

- ・学校現場における教材研究が、担当する学級の生徒の実態に即して行われているため、それを念頭に置いて学習指導案が立てられている。また、そこでは個々の生徒との日々の接触や学級の持つ雰囲気など、所謂“潜在カリキュラム”(hidden curriculum)を把握したうえでの授業展開が構想されている。
- ・勿論、教材研究や学習指導案の作成に際しては、実習先の指導教員の詳細な指導・助言と綿密な打合せに基づいてなされているので、大学で行っているような教師用指導書のみに基づく安易や指導や事前打ち合わせでないことは、改めて再認識した。
- ・高校の場合、パワーポイントを用いる授業も少なくなかったが、作成されたスライドを見ても、内容が簡潔に書かれてポイントがうまくまとめられている。さらにまた、イラスト等も用いて、カラフルな色彩に彩られており、視覚的にも非常に効果的であった。
- ・次いで、実際の模擬授業に際しても、以前の授業とは見違えるほど異なる素晴らしい授業を学生が行っ

ている。単に授業を行うだけでなく、表情や声の強弱、立ち振る舞い、生徒への接し方など、様々な点で配慮や心遣いを意図的にできるように彼らは成長している。近年改訂された『生徒指導提要』においても、学習指導と生徒指導は一体になって行われるべきであるとされているが、私語やよそ事への注意等、学習ルールの遵守は言うまでもなく、重要な事項への注意・注目、学習への動機づけ、あるいは発言ができない生徒や学習に意欲的でない生徒に対する働きかけもうまくできるようになっている。

- ・また、単に知識技能を授業で伝達するだけではなく、授業の核心とも言える「(授業を通して)生徒に伝えたいこと」を学生が明確に意識しており、それがあつ程度うまく達成できたか否かで授業の成否が決まることを認識している。教育実習を通じて、これらの点が彼らの得た大きな成果であり、そこにまで至った彼らの成長と彼らを指導して頂いた実習校の先生方に心から感謝と敬意を表したい。
- ・この他、授業を終えた受講生のコメント(「みんなの声」)にも見られるように、学生自ら学んだ学習内容が身に付いたことが多くのコメントにおいて述べられている。それは、生徒側に授業のめあてやねらいが浸透したわけであり、著しい授業効果があつたことを意味するに他ならない。保健の授業であれば、例えばタバコや飲酒の健康の悪影響を知り、禁煙禁酒を誓ったり、生活習慣病の授業を聞いて、生活習慣の改善に取り組み始めたという声がその一例であろう。また、道徳の場合は、心に響く授業としてそれ以降の心の糧になったというコメントが、そのよき事例の1つであると思う。

### Ⅲ. 模擬授業の感想

では次に、教育実習後、模擬授業を行った4年生の感想について述べたい。さらに、併せて模擬授業を受けた受講生(2年生及び4年生)のコメントをまとめた「みんなの声」を添付しておく。

#### ① Aさん(高校保健「生活習慣病」)

3年生から生活習慣病に関する模擬授業をやつて、授業の難しさや楽しさなど、教師としての資質や能力を高めることにつながつたと思う。最初に模擬授業をした時は、先輩の動画を見てそれを真似するだけだったが、回数を重ねていくことで、生徒に何を伝えたいかを自分で考えながら、授業を組み立てることができるようになった。また、時間配分の必要性や生徒が、主体的に授業に参加できるようにするための工夫が大切だということを実得した。今回の模擬授業では、教育実習の経験などを踏まえて、生徒が関心を持って学習に取り組めることができるように、次の2つのことを行った。1つ目は、生徒のペアワークの時間を予め決めておくことである。なぜそうしたことをしたのかと言うと、実習の時に生徒の話し合いが終わるまで待っていると時間が足りなくなつてしまつたり、クラスによって進み具合に違いが出てしまつたりするからだ。2つ目は、生活習慣病が自分事であると思えるようにすることである。生活習慣病は、成人期の働いている時に症状が出るが多いため、生徒が自分のことのように考えて学ぶことは難しい。そのため、高校生時に生活習慣が大人になってから大事になることを彼らに伝えることで、自分にも当てはまるという考えを持たせるように工夫した。また、現在の生活習慣をふりかえらせることで、改善点を見つけるなどの活動も取り入れた。このように教科書に書いてあることを生徒に伝えるだけでなく、彼らが健康に生活するために必要なことは何かについて、情報をまとめて伝えることが大切なことを学んだ。これから他の単元について授業をする時も、この考えを持って生徒に伝えていきたい。

図2. みんなの声 授業者：〇〇先生

令和7年6月17日(火)

よい点	改善すべき点
<p>最初に、生活習慣病についてワークシートを用い、1.「帰宅後の生活」について尋ねる。(教師のものは、前もってワークシートに記載されている。)☞教師が見本となり、生徒との比較ができる。生徒の生活実態を知るうえでも、重要な点である。</p> <p>机間巡視・指導を行う。生徒を指名して板書させる。本時のねらいを併せて述べている。☞何について学ぶのかが、明らかにされている。</p> <p>教師が大きな声で範読し、重要な箇所にマーキングさせている。☞生徒に読ませるという方法もあるが、教師が主導して授業を進め、生徒が積極的に参加するというやり方も悪くはない。</p> <p>生活習慣病について、概説をする。</p> <p>ワークシートを用い、2.「生活習慣病の原(要)因」について尋ねる。生徒を指名して、回答させる。教師が板書する。同様に、重要な箇所をマーキングさせる。☞教師主導ではあるが、授業が円滑に進んでいる。</p> <p>「肥満がどのような生活習慣病を生み出すか」を図示(ワークシート2)して、説明している。☞一例として、動脈硬化の血管を例示しているので、分かりやすい。</p> <p>ワークシート3(「日本人は、米国人、イヌイット人と比べて、何番目に太りやすいか?」)に入る。班ごとにグループワークを行い、議論する。机間巡視・指導を行っている。☞生徒の中に入り、議論の一部に加わっている。</p> <p>回答の一覧表を作り、教師がそれを板書する。その理由について、尋ねる。儉約遺伝子の影響により、イヌイット人が1位、日本人が2位、米国人が3位(食べたものを脂肪として蓄える遺伝子)である、と回答・解説している。</p>	<p>人前で指名することを予め伝えておいたほうがよい。</p> <p>生活習慣病の原因については、複数の生徒に回答させたほうがよい。</p> <p>イヌイット人の説明があるとよい。</p> <p>生徒に読ませてもよい。</p>

<p>Q4「生活習慣病の予防」について尋ねる。(ワークシート4) 生徒を指名して、発表させる。</p> <p>「健康的な食事」「早寝早起き」「禁酒」「禁煙」、以上が1次予防(未然予防)である。</p> <p>次いで、生活習慣病の予防・早期発見＝2次予防に入る。</p> <p>Q5「健康診断の検査項目」について、ワークシートでその意味について考えさせる。各項目をフラッシュカード化して、教師が自分でまとめる。☛ 教員の豆知識を基に、専門的視点で、まとめている点は評価できる。(生徒にとっては、調べ学習の視点で行ってもよい。)</p> <p>三次予防(病気の治療・回復)、社会的対策に入る。教師の範読で解説を行っている。健康診断の大切さを説いている。</p> <p>Q6 ワークシートで、「生活習慣の変化に対応した意識」について、尋ねる。代表者に発表させる。これにて、まとめとする。</p>	
<p>感想</p> <p>教育実習を踏まえたうえでの“模擬授業”は、さすがにこれまでの豊富な知識と実践に基づいたものであり、また〇〇先生自身のこれまで培ってきた経験の積み重ねも加わって、大変見応えのある内容でした。生徒から寄せられたコメントは、以下のようです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆最初の「帰宅後の生活」からの問いに興味を持って、授業に引き寄せられた。</li> <li>☆内容的には難しかったが、先生の声が大きく、理解しやすかった。</li> <li>☆生徒の意見に対してポジティブであり、生徒も自信を持って発言できる。</li> <li>☆板書も図あり、表ありで工夫が凝らされている。</li> <li>☆教科書にない情報も取り入れ、そのことで教科書に載っている内容も理解が深まる。</li> <li>☆生徒と積極的に対話し、共感しながら話している。</li> <li>☆声がハキハキして聞き取りやすい。</li> <li>☆周りを見て、進行のスピードを変えている。授業の雰囲気が良い。</li> <li>☆生徒の様子をしっかり観察している。</li> <li>☆フラッシュカードをうまく使いこなしており、チョークで板書するよりも見やすく分かりやすい。</li> <li>☆発問から授業に入っていくまでの流れがスムーズである。</li> </ul>	

☆生徒に考えさせる時間や答えさせる時間が多く、生徒主体で授業が展開している。

★教師のスピードが速くて、ついていけない時がある。

★説明がアバウトで、難しい単語が入ってきて分からなくなることがある。(絵やイラストを用いて説明すると、理解度が上がるかも知れない。)

〇〇先生の授業は、いかにも高校の先生という専門性に裏打ちされた洗練されたものでした。教育実習を終え、学校現場で先生方や生徒たちと直接触れ合うことで、現場感覚が身に付き始めた証拠だとも思います。これから本当の教師になるための勉強が始まりますが、一層磨きをかけてがんばってほしいです。期待しています。

## ② Bさん (中学校道徳「さかなの涙」)

3年生の時の授業より、内容や話し方がうまくなっている。皆の前で話すことに慣れたことが大きいと思う。自分の成長点としては、今までより授業の導入を大切に、生徒が楽しいと思えること、当事者意識を持たせること、主体的に授業に参加する雰囲気を作ることがとても大切だと分かった。生徒と授業中で交わす会話や、コミュニケーションを大切にすることもできるようになった。教育実習に行くと、自分の授業がまだまだ発展途上にあることを思い知らされた。自分が期待した答えが返って来なかったり、自分が思っているよりも生徒が理解してくれるのに時間が掛かることもあった。そうした時に対応が迅速にできるように、指導力を今後向上させていきたい。

図3. みんなの声 授業者：〇〇先生

令和7年4月29日(火)

よい点	改善すべき点
<p>「さかな君」の写真を見せ、本時の内容の一部を提示している。☛皆が知っている「さかな君」の写真を見せることで、生徒の興味を引いている。また、板書が簡潔で分かりやすく、後の展開もクリアーで期待できる。</p> <p>CD-ROMを使って、教師が生徒に範読を聞かせる。</p> <p>物語の概要を教師が説明する。☛内容把握にとっては、適切な説明である。いじめの傍観者について、説明を加えている。</p> <p>Q1ワークシートで「なぜいじめが起るのか」を生徒に尋ねる。(発問を板書する。)ヒントを与え、生徒の内容理解についての補助をする。</p> <p>グループワークで、議論を行わせている。(意</p>	<p>学習のめあてを言い忘れている。</p> <p>“広い海”“水槽”は、何をたとえているのかについて生徒に考えさせると、Q1の問いがもっと考えやすくなる。</p> <p>板書の文字がもう少し大きくてもよい。</p> <p>生徒のコメントに口頭のみならず、板書上での工夫があるとよい。</p> <p>生徒の漢字ミスに気づき、指摘してやったほうがよい。</p> <p>少々喧しいときは、注意も必要だ。</p> <p>先生の体験談が聞けると、よりよい授業になると思う。</p>

見交換、よい意見があれば、回答欄に色付きで書くように指示している。) ← グループワークが適切に行われて、議論も活性化している。また、いくつかのグループの意見を聞くことができた。

机間巡視・指導を行い、生徒の学習状況の把握に努めている。← 生徒と会話を交わしながら、学習へ引き込もうとする努力も評価できる。

何人かに発表させる。← 生徒に回答の確認や補足をさせていてよい。同様に、生徒の意見への同意やよい説明への対応も適切である。常に教師自身の言葉で、分かりやすく説明を加えている。

・やることがないので、ストレスが起きるから。  
・違いのある子(魚)がいない。一種のカーストである。

Q2「自分が誰かに気持ちをぶつける時は、どんな時か。」← 重要な発問なので、色チョーク(黄色)で際立たせている。グループワークを行わせる。代表者に板書させる。

・気持ちがオーバーヒートしている時  
・意見の違いのある時

Q3. 「いじめを見た時、さかな君は何を学んだか。(得たこと)」← 重要な中心発問なので、色チョーク(黄色)で際立たせている。代表者に板書させる。多様な意見を皆で共有する点で、このようなやり方はよい。

・見て見ぬふりをしない。  
・大好きなことに夢中になれば、嫌なことも忘れられる。  
・その子に合った関わり方が必要だ。

Q4「いじめに対して、自分ができることは何か。」← 赤字で最も重要な問いであることを強調している。

<p>◎いじめをしないように</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手と自分の違いを理解する。</li> <li>・ストレスを発散する。</li> </ul> <p>◎いじめを見た時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する。</li> <li>・先生に言う。相談する。</li> <li>・寄り添う。</li> </ul> <p>☞それぞれの回答にうまく補足して説明を加えている。</p> <p>まとめ</p> <p>教師が授業の総括を行う。「いじめの加害者が100%悪い。いじめをしない。」</p>	
<p>感想</p> <p>いじめの問題を道徳の授業で取り扱うとても大切に難しい内容でしたが、〇〇先生の授業は、教材の核心に迫る蘊蓄のあるものでした。内容的には、さかなの世界でのいじめを人間の世界に投影させたもので、特にいじめの四層構造（被害者、加害者、扇動者、傍観者）のうち、傍観者をいかにしていじめを止めさせる側に引き込むか、ということのをねらいとした授業でした。生徒として受講した学生の方からは、「いじめについて、しっかり学べた」「被害者を救済するためには、どうしたらよいか教わった」「皆と話し合ったり、意見を共有したりして、いじめについて深く考えることができた」「いじめについて改めて考えたり、他の人たちの意見を聞いて自分の考えにまだまだ足りないところがある」と考えたり、「自分の感情をコントロールし、言葉や行動で他人を傷つけないようにして、社会においてもいじめられている人に対して寄り添えるようにすることを学んだ」という、いじめの授業のねらいの本質に迫る声が多く寄せられていました。</p> <p>私自身、「昨年から引き続いて3回目のため、大変スムーズに授業が展開している」「要点を押さえて、道徳の中心発問、最後のまとめなど、ポイントを押さえて率なく授業を進めている」「生徒に語りかけながら、机間巡視・指導を行っており、生徒と一緒に授業を創る姿勢に徹しようと心がけている」ことが強く印象に残りました。</p> <p>この他、次のような意見も聞かれました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☆授業への参加がしやすいようになっている。</li> <li>☆CD-ROMを活用して、音読を行っている点が良い。そのことによって、本時の内容がスムーズに入ってきた。</li> <li>☆板書が要点よくまとめられている。</li> <li>☆声が大きく、聞き取りやすい。優しい話し振りがよい。</li> <li>☆いくつかのグループの意見を共有できた。</li> </ul>	

☆授業への集中が出来ていない生徒には、声かけをして授業への参加を促していた。

☆机間巡視・指導が的確かつ効果的に行われている。

さらに、〇〇先生の授業を聞いて、「大いに自信を持って、これからもがんばってください！」  
「優しく語りかけてくださり、分かりやすい授業をありがとう。応援しています！」というエールも送られていました。

### ③ Cさん（高校保健「応急措置」）

模擬授業を何度も行うことで、授業の展開はうまくできるようになった。どのようなことに対しても、ある程度対応できるようになった。また、生徒や授業を見直す視野も広がってきた。他方で、レクリエーション形式で今回授業をやったが、この場合基礎的な学習形態が疎かになる危険性が危惧される。生徒に興味・関心を持たせ、授業に引き付けるまではできたと思うが、そこにどれほどの内容を詰め込めるかについて、もっとうまくやらなければならない。確かに、自分のキャラクターに合っている授業スタイルであると考えたため、内容を変えつつ、もっとうまくいくような授業ができるように心掛けたいと思う。人と同じ授業をするのではなく、楽しく、分かりやすい授業を目指していきたい。

図4. みんなの声 授業者：〇〇先生

令和7年7月15日（火）

よい点	改善すべき点
<p>プリントを裏返しする。</p> <p>教師が高校生当時、登校途中けがをした子どもに応急手当をした経験について、教師が話を する。</p> <p>班分けをする。順番1～5で分かれる。自己紹介をして、チーム名を付ける。</p> <p>チーム名を代表に板書させる。</p> <p>プリントの裏にメモをとる。</p> <p>教師が教科書を読む。教科書を配布していない。メモを取らせる。</p> <p>1. ワークシートの穴埋めをする。班で相談する。「3～5分位」取る。</p> <p>教師が解答を口頭で行う。生徒も盛り上がっている。チームごとに、正解数を教師が板書する。（1回戦）</p> <p>2. ライス（RICE）について、尋ねる。応急</p>	<p>明確な時間設定をしたほうがよい。</p> <p>教師が独りで盛り上がっているところが見られた。</p>

<p>手当に必要なものを調べる。(2回戦)</p> <p>R : Rest 安静</p> <p>I : Ice 冷却</p> <p>C : Compression 圧迫</p> <p>E : Elevation 挙上</p> <p>3. 熱中症対策について、尋ねる。</p> <p>「飲料水」等を挙げる。(3回戦)</p> <p>4. じゃんけんで、勝った者に商品を与える。</p> <p>最後に、終わりの挨拶をして、締めくくる。</p>	
<p>感想</p> <p>レクリエーションを取り入れた大変おもしろい授業でした。生徒も大いに盛り上がり、学習への動機づけ、興味関心を持たせ楽しく学ぶという点では、効果満点だったと思います。</p> <p>受講した生徒役の学生からは、次のような意見が寄せられています。</p> <p>☆教師は少しへらへらしていたが、大事な所はしっかり教えてくれてよかった。</p> <p>☆こうした楽しむ授業もできることも、大切だと強く思った。</p> <p>☆積極的に授業に参加できた。クイズ形式で順序付けをするなど、興味が沸く工夫をしていた。</p> <p>☆導入部で、教師の話聞き取る練習は、生徒に集中させる点でとても効果的なやり方だった。</p> <p>☆本気で学べた。</p> <p>☆ポイント制のクイズ形式の質問は、楽しくおもしろかった。</p> <p>☆皆が笑顔になれる授業だった。</p> <p>☆クラス分けが唐突だったが、普段の授業に見られないところがおもしろかった。</p> <p>☆このクラス分けのお陰で、男女が自由に話し合える雰囲気になった。</p> <p>☆先生の声の大きさと元気が、よい意味で授業を圧倒していた。</p> <p>★クイズ形式での質問に不正をしたグループ(生徒)には、注意すべきだ。</p> <p>★参加していたが、あまり深く学んだという授業感がしなかった。</p> <p>★教師が知識を養わせるような工夫があるとよかった。</p> <p>本来、保健の授業は、生徒が興味を持って学習することがなかなか難しい授業です。しかし、先生の特異的なキャラクターで、“おもしろおかしく”生徒を学ばせることは、とりわけ小学校の先生を目指されている〇〇先生にとって、とても強みなる個性であると確信します。また、体育はレクリエーション活動もその領域に含まれてくるので、こうしたレクの要素を授業に取り入れる視点もとても大切だと考えます。今後も一層こうした点を磨いてがんばってください。大いに期待しています。</p>	

④ Dさん（高校保健「食事と健康」）

教育実習でも、「保健の授業はうまい」と言われたので、ゼミでの模擬授業がとても役立っていると思いました。基本的に教科書に沿って授業を進めましたが、その中で生徒が飽きないようにするのが大変だと感じました。大学での模擬授業は、飽きる人が多いので、その点鍛えられました。他のゼミ生の授業を見て真似したところもあり、それによってどんどんよい授業が創れたことも事実です。グループワークの仕方や発表のさせ方、ワークシートの使い方なども前もって試行でき、自分の授業スタイルの構築に役立ちました。

図5. みんなの声 授業者：〇〇先生

令和7年7月22日（火）

よい点	改善すべき点
<p>めあてについて述べる。「バランスのある夕食を作る。」</p> <p>「朝ご飯を食べてきたか」について尋ねる。朝食を食べないと、教師がどうなるかを説明する。「苛つく。」「心や体に影響を与える。」</p> <p>5大栄養素について尋ねる。生徒を指名する。パワーポイントを用いて、説明する。☞ 具体的食品名を挙げて、栄養成分やカロリーを説明していて、よく分かる。食品をパワーポイントで図示しているのも効果的である。</p> <p>塩分について話し合う。カロリーだけではなく、栄養分や塩分摂取（制限）や野菜摂食の重要性も説く。☞ 身近な話を交えているので、興味が沸く。</p> <p>サプリについても言及している。ダイエットについても触れ、摂食障害になり、心の病気にもなるので戒めている。</p> <p>孤食についても、クイズ形式（①こ食、②濃濃食、③固食、④孤食）で答えさせる。また、それぞれの意味についても、教師が説明を加えている。さらに、孤食の弊害についても、2番目に授業で大切なことを強調する。コロナ禍以降孤食だったが、最近特に問題になり始めた。☞ 1人で食べることは、本質的に食事を楽しむという</p>	<p>うんこ味？については、生徒の興味を惹くが……???</p> <p>話すごとに、文節ごとに話が途切れることがあった。</p>

<p>点で、問題だ！誰とどうやって食べるのかの点について関連付けると、健康的な食事にとっても重要だからである。👏 拍手喝采。</p> <p>5大栄養素をすべて含んだ食事が、大切であると述べている。👏 とってもよい指摘である！！</p> <p>教師のアルバイト先の賄い食（ラーメン屋の中華料理）についても触れていて、その問題点を生徒に考えさせる。「野菜が少ない。」「油や脂肪、塩分が多い。」「高カロリー食だ。」「炭水化物の塊。」👏 排泄物まで触れていて、おもしろい！</p> <p>グループワークに入る。バランスの良い健康的な食事の例として「一汁三菜」を取り上げ、理想的な食事について夕食を考える。調べ学習（スマホを使用可）をする。栄養のポイントを考えるように指示する。例）ミネラルを考えて、みそ汁にわかめを入れる。（10分で考える。）</p> <p>適宜巡回指導をして、アドバイスを行っている。グループ間の議論も盛り上がっている。</p> <p>5大栄養素を黒板に写し、各班から発表させる。（注目するよう注意を促す。）👏 栄養バランスを見るために、効果的である。</p> <p>5大栄養要素を摂るだけでなく、消化の面などについても言及している。それぞれについて、教師がコメントを加えている。👏 各班に対して、適切なアドバイスをしている。</p> <p>最後に、まとめとして今後の家庭での夕食の献立について考える際の示唆になることや、栄養バランスを考えることの重要性を意識して終わる。</p>	
<p>感想</p> <p>大きな声ではっきりと手際よく進める〇〇先生の授業は、とても見応えのあるものでした。また、具体的な食事に関する事例や話が入り入れられていて、大変興味の沸く内容でした。さすが教育実習で鍛えられた成果だと思います。パワーポイントのスライドもカラフルで、具体的な食の事例がふんだんに入れられており、大変見やすいものでした。</p>	

受講者からは、次のような声が寄せられています。

☆声が大きく、聞き取りやすい。

☆楽しい雰囲気作りがよい。自然と授業に参加したくなる。

☆クイズ形式でおもしろい。

☆「こしょく」について、深く学べた。

☆アルバイト先での賄い食や排泄物にまで触れていて、おもしろかった。

☆生徒に問いかける授業を心がけており、生徒の方もそれに応えて盛り上がった。

☆5大栄養素のスライドを黒板に写していたので、献立を考える際によく理解できた。

☆栄養について考えてくれる母親の有難味が、この授業を通じて分かった。

☆教科書を使っていない分、スライドに集中しやすい。

☆具体的な事例を提示して説明しているので、内容が頭に入りやすい。

☆教師自身の話も盛り沢山にしているので、興味が持てた。

☆生徒同士で考えさせることによって、学びを深めることができた。

☆間違った回答に対しても否定せずに、上手にカバーしている。

☆カロリーばかりに拘るダイエットや摂食障害よりも、「一汁三菜」のようにバランスの採れた食事が健康によいことが身に染みて理解できた。

☆心の健康にまで言及しているのがよかった。

☆献立を考えることで、自分が栄養素を考えながら決めることができてよかった。

☆サプリメントの話まで触れていて、食事の幅が大変広範囲にわたる授業だった。

★声のトーンが一定だったので、場面に応じて使い分けるとよいと思う。

教育実習では、日程の関係上体育の授業しか参観できませんでしたが、是非〇〇先生の保健の授業も見かけたです。こんなに興味津々で、おもしろい「食事と健康」の授業は初めてでした。本当にお疲れ様でした。

受講した2年生の感想としては、何度も繰り返しになるが、改めて以下のような声が寄せられている。

### ① Eさん

矢田ゼミで毎週模擬授業を受けてきたので、どのように自分が授業をするかについて、ある程度イメージできるようになった。大学に入り、中学校・高校の授業がぼんやりとしか思い出すことができなかったが、先輩方の模擬授業により、次第に具体化できるようになった。また、毎回違う人が授業をするので、そのやり方が千差万別でおもしろかった。すべて黒板とチョークで行うものもあれば、パワーポイントで行うもの、クイズ形式で生徒に興味関心を持たせるものなど、様々な授業形式が採られていた。その中で、生徒を授業に引き付けるための工夫がとても参考になった。この模擬授業を通して学んだことを今後の参考にしていきたい。

### ② Fさん

4年生の先輩から受ける模擬授業は、とても新鮮で、毎時間楽しみながら授業を受けることができました。各先輩とも授業の展開の仕方、1人1人生徒との向き合い方、教材の使い方など、千差万別で教え方の多様性を感じました。しかし、その中でも共通していたことは、どのようにしたら分かりやすく

生徒に伝えられるかという思いでした。授業をするに当たって、自分の考えや思いをただ単にぶつけるのではなく、教える側に寄り添って伝えることが大切です。専門用語を用いて教えるだけでは生徒は理解できず、却って分からないと思います。先輩が分かりやすく言い換えたり、生徒の意見を活用し、それに知識を付け加えたりして臨機応変に対応していることに凄さを感じました。私も教師を目指しているので、毎時間よいと思ったことは参考にして、改善すべきと思ったことは、生徒の立場に立って考えようと思いました。この模擬授業を通して、グループワークを促したり、言葉の言い換えをしたりして周囲を見て生徒に寄り添う楽しい授業を行うことの大切さを学ぶことができました。

## おわりにー今後の課題ー

今回、2年次における「専門基礎演習」の授業報告を取り上げたが、すでに述べてきたように従来1年生でのスポーツ健康科学部の基礎教育の上に立って、また3年次からの本格的な専門演習の基礎を培うための場として、本時の学修が位置づけられている。しかしながら、本授業において、本当にこれまでの学修とこれからのそれがうまく関連し、カリキュラムマップに沿った方向で学生の学びが進行するのであろうか。この点については、現時点で評価を下すのは、まだ新課程が学年進行段階であるため、難しいのが事実である。しかし、1年次の学修を経て、2年次の学修がどうであるかという形成的評価の観点では、一定の判断を下すのが可能である。いくつかの点で、気づいたことについて私見を述べたい。

まず第1に、冒頭で説明したように、本ゼミが教職志願者を対象としたゼミであるにも関わらず、実際選択して入ってきている学生の半分近くが、教職課程を履修しているが将来に他の方向に就職を考えている者が少なからずいる。実際、将来の進路について学生に尋ねたところ、数名の者が公務員(消防士)や企業、あるいは未定という者も少なくなく、現時点で明確な教職志望学生は、数名に過ぎなかった。

しかしながら、教職を履修していない学生であっても、本ゼミを受けた全体的な感想や先輩の模擬授業の感想については、現在教職を履修していなくても、「有意義であった」と回答を寄せた学生も何人かいた。また他方で、教職を履修していても、「却って自分には教師が向いていない」ことを自覚したり、「先輩のような模擬授業を自分は、とてもできない」と悟る学生もいたことは事実である。一方、幅広く教育の学修や学校ならびに教師についての一般的な見分を広めたり、興味関心を持たせるという意味では、必ずしも教職履修者に受講を限定する必要はないのかも知れない。ただし、「単位が取りやすい」「ゼミの課題があまりなく、“楽単”(=容易に単位が取得できる)だ」というような学生は、極力排除すべきである。

次いで目立ったことは、学生の学力低下の点である。ここ数年来、本学部の偏差値は低下の一途辿っており、有名予備校の弾き出す本学部の偏差値は、大変厳しいものがある。そのことを裏付けるように、ここ数年の中高の保健体育教員採用試験合格者は、2年続けてゼロである。教職志願者の激減とも相俟って、然るべき有効な対策が立てられない状況に陥っている。ちなみに、本演習に関しても、かつては2年次の段階で模擬授業を課して、学生が教師役を演じることは十分可能であったのは事実である。現在の状況では、もしシラバスに「生徒役ではなく、教師役として模擬授業を行う」ことを明記すれば、ゼミ希望者は激減すると予想される。

今回の令和5年からの本学部の改組では、教職履修者をスポーツ教育コースの学生に限定せず、自由にコース選択をすることを可能にした。しかし、その結果、そのことが却って各コースの独自性や特色を曖昧にすることになってしまい、玉石混交の中、本来教師になるための基礎学修であったゼミが、何のためにやっているのか不明確なまま、いたずらに時間が過ぎてしまっている感は否めない。目下、スポーツ健康科学部では、将来構想委員会を本年度から立ち上げているが、今後このような問題点を十分認識して今後の学部の歩む道を示してもらいたい。

また本来、教職課程は、教員を本気で目指す学生のみが履修すべきであり、文科省の教育職員免許法や同施行規則（第19条）においては、開放制に基づく学部においては学士課程とは別に教職課程をオプションとして設置しているため、殊の外、上記のことが求められる。現在、教員養成を巡る議論が中央教育審議会を中心に開始されており、教員志願者を増やすべく、教員免許取得の門戸を拡げるために、教育職員免許法の抜本的改正が目論まれている。本学部の教員養成もこの動きと歩調を合わせることを望ましいと考えられるが、学部内においては、現在問題となっていく本学部の教員養成に関する課題について真摯に取り組み、然るべき方向性を打ち出せるよう、関係各位に今後の熟議を期待したい。